

檮だより

2021. 12. 7. Thu.



年頭にあたって

～1月7日全校集会あいさつ～

みなさん、新年あけましておめでとうございます。

この冬休みは、いつもとかなり違い全国的にステイホームが求められ、自宅で静かに年末年始を過ごした人が多かったことと思います。残念ながら新型コロナウイルス感染症は終息の兆しが見えず、不安やストレスも解消できないまま、新年を迎えることとなりました。

しかし、私達以上にもっと大変な状況にある人々が沢山います。感染してしまった人々、営業自粛を要請され、経済的に苦しい状況に置かれている人々、そして何より、日夜必死に医療活動に従事している方々を思うと、私達は、思うようにならないことが多い今の生活の中でも、自分を見失わず、今できることを精一杯やるのが大切だと改めて思います。それが、皆さんが社会のためにできることなのではないでしょうか。「常に神と共に歩み、社会に奉仕する」という本校の教育方針を発揮するのは、まさに今なのです。

例えば、感染を防ぐのに、マスク、消毒、換気、3密を避けることが欠かせませんが、自分がそれをいつもできているかどうかを意識することが「常に神とともに歩む」こととなります。そしてやるべきことをきちんと実行することが「社会に奉仕する」ことにつながるのです。皆さんは、「常に神と共に歩み、社会に奉仕する」広島なぎさの一員であることを決して忘れないで下さい。

さて、元旦にニューイヤー駅伝が開催されましたが、参加チームの中に、埼玉医科大学グループがありました。出場にあたり、メンバーは、病院の仲間や他の病院の人々が医療活動で寝る間もない状況の中で、駅伝に出てもいいものかと悩んだそうです。けれども、仲間たちは、「だからこそ出場して欲しい。それが全国の医療従事者を励ますことになる」と背中を押してくれたそうです。走るメンバーも日夜医療活動に従事しているわけで、その傍ら練習することがどれだけ過酷なことだったかは、容易に想像がつかます。かれらは20位以内を目標とし、見事20位でゴールしました。それぞれが、その時その時自分が果たすべきことをし、そして互いに支え合うことで、どんなことも乗り越えていける、そんな思いを強くする出来事でした。

受験を控える6年生の皆さん、皆さんは国の入試政策に翻弄され、新型コロナによる休校などで勉強が進まない不安と闘い、これまで本当に大変な状況乗り越えてきました。本番を迎え、皆さんが持てる力を精一杯発揮して、自分なりに目標を果たすことを、心から願います。

応援しています。

最後に6年生、そして全ての生徒に、2019年ノーベル化学賞を受賞された吉野彰先生の言葉を紹介したいと思います。

「駅伝もマラソンも、明確にゴールが決まっている。ゴールを設定すれば、人生は駅伝と同じ。壁に何度もぶつかる嫌になるが、ゴールがあれば壁を乗り越えただけゴールに近づく」

新型コロナウイルス感染症も、これから先の社会も、ゴールが見えないのが今の状況かもしれないかもしれません。でも、だからこそ、そこに自分でゴールを設定せよと、吉野先生はおっしゃっているのです。そして、先生はこうもおっしゃいました。「ゴールには必ず宝物がある」と。

それを信じて、駅伝のように仲間と励まし合って、壁を乗り越えていきましょう。



昨年の秋ですが、卒業生からメールでお便りをいただきました。本校を2017年に卒業した川崎耀さんです。川崎さんは、この春九州大学の理学部地球惑星科学科を卒業され、気象庁に入庁されるとのことで、その報告と中高でお世話になった先生方への御礼のお便りでした。私と川崎さんとは入れ違いで、直接お会いしたことはないのですが、見事な文面に接し、合格を嬉しく思うとともに、何かとても誇らしい気持ちになりました。文章から伝わってくる人柄にも惹かれました。ご本人の了解を得ましたので、メールを紹介します。



突然の御連絡失礼いたします。広島なぎさ高等学校卒業生、九州大学4年の川崎と申します。私事ではございますが、先日国家公務員総合職試験に首席合格し、来年度より気象庁本庁に入庁することとなりました。そして、5年6年時の担任である山口将宏先生や学年主任の植田誠先生をはじめとした、お世話になった先生方にご報告、お礼をしたくご連絡いたしました。先生方の連絡先を存じ上げないため、事務室の方にご連絡差し上げました。お手数をおかけしますが、先生方にお伝えいただきたく存じます。

中学校・高校時代にはお世話になりました。ご指導いただいたこと一つ一つを胸に、大学でも勉学を励み、目標としていた気象庁入庁を果たすことができました。就職活動の中で、自分の人生を振り返る機会もありましたが、やはりなぎさでの6年間では特に貴重な経験をすることができたと思っております。改めて感謝申し上げます。

本来であれば直接学校に伺いご報告したいところなのですが、コロナ感染症が流行している状況ですので、メールという形でのご報告させていただきます。感染症が落ち着いた際には、また母校に伺いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

時節柄、ご自愛のほどお祈り申し上げます。



所期の目標を実現できたのは、強い意志とたゆまぬ努力があつてこそのことでしょう。そして、お世話になった人への感謝を忘れない人間性にも裏打ちされていると思います。川崎さん、本当におめでとうございます。在校生の皆さん、先輩に続きましょう。